

授業科目名	海外実習 B	担当教員	岡元 ひかる 大野 はな恵
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2 年 第 2 クォーター		
講義内容	<p>ハンブルクとベルリンを拠点に約 2 週間のドイツ滞在研修を行う。具体的には、現地のダンスフェスティバル、音楽祭、ミュージカル、文化施設の展示などを視察する。さらにアーティスト、ドラマトウルク、劇場職員、芸術祭ディレクターを含むドイツの芸術関係者たちによるワークショップやレクチャーを通じ、ドイツの芸術文化と職能について幅広く学ぶ。渡航前に、現地での学びを充実させるために、数回の事前学習授業を実施する。</p>		
到達目標	<p>(1)ドイツ特有の劇場制度、助成金システム、歴史に根ざす記憶文化とその思考をめぐる今日的状況を、渡航前の予習と現地の体験を組み合わせることで学ぶことにより、グローバルな視点から芸術と社会の現在地を把握する。</p> <p>(2)ワークショップへの参加や作品鑑賞から、古典的／実験的／商業的な芸術表現それぞれに固有の特性を、自律的価値（作品固有の美しさや構成）と社会的価値（作品が社会に与える影響）の両面から考え、言語化することができる。</p> <p>(3)現地アーティストや芸術祭ディレクター、劇場関係者との対話やワークショップを通じて、芸術やコミュニティに関わる職能の多様性を知る。</p> <p>(4)ドイツの各地域における文化や歴史や環境と、昨今のプロジェクトとがどのように影響し合っているのかを学ぶ。その知見をもとに、日本における芸術文化と観光が、どのように持続可能な関係を築くことができるかを考える。</p>		
授業計画	<p>引率者：大野、岡元 履修人数：約 8 名</p> <p>5 月～8 月上旬：事前学習会 約 3、4 回 8 月第 3 週～9 月初旬の間で約 2 週間：渡航＋現地滞在（前半ハンブルク／後半ベルリン）</p> <p>〈主なプログラム内容〉 ※今後変更する可能性があります カンパーナゲル劇場の夏季フェスティバル視察／シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン音楽祭視察／エルプフィルハーモニー劇場ツアー／ミュージカル鑑賞／「8 月のダンス」フェスティバル視察／現地ドラマトウルク</p>		

	<p>によるレクチャー＋Floating University Berlin 視察／ベルリンの美術館 島視察／ベルリン祝祭劇場視察／現地アーティストによるワークショップ 他</p> <p>〈2024 年度実施する説明会・履修者選考について〉 下記に関する案内は、今後すべて学内全体向けのメールで行います。なお、 スケジュールが少し前倒しになる可能性もありますので、履修に関心のあ る人は必ずメールをチェックして下さい。</p> <p>2024 年 2 月中旬：説明会の開催日時と資料公開＋選考用課題の〆切日を告知</p> <p>2 月末： 説明会＋選考用課題の内容告知（学内全体向けメールでも告知 します）</p> <p>3 月上旬：選考課題〆切</p> <p>3 月上旬：結果告知</p> <p>3 月上旬：航空券＋ホテル予約の手続き開始</p> <p>2025 年 4 月以降：現地での詳細スケジュールの確定</p>
事前・事後 学習	<p>5 月～8 月上旬に、約 3、4 回にわたって事前学習会を実施します（宿題や 課題を出す可能性有り）。事前学習会は研修の成果を左右する不可欠な準 備であり、参加状況や提出物は成績評価に直結するため、必ず責任を持っ て取り組むこと。</p> <p>研修中の日報と、事後レポートを帰国後にまとめて提出してもらいます。</p>
テキスト	適宜指示します
参考文献	事前学習会の中で紹介します
成績評価 の基準	<p>事前学習会への出席率および提出課題など（30 点）</p> <p>研修中のプログラムへの積極的関与（30 点）</p> <p>日報と事後レポート（40 点）</p>
履修上の注意 履修要件	<p>研修期間全日程に参加できることを履修の条件とします。</p> <p>1 日の実働時間は 8 時間（休憩 1 時間を含む）を基本としますが、 海外実習の性格上、業務の必要に応じて変則時間となる場合があります。</p>
実践的教育	該当しない。

備考欄	
-----	--